

# 平成25年度全国学力・学習状況調査結果概要

東員町教育委員会

## 1. 調査概要

◎平成25年4月24日実施（きめ細かい調査）

◎町内全小学校の第6学年（218名）、全中学校の第3学年（216名）で実施

◎調査の目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

◎国語、算数・数学を実施

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
<ul style="list-style-type: none"> <li>○身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li> <li>○実生活において不可欠であり、常に活用できているようになっていくことが望ましい知識・技能 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力</li> <li>○様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力 など</li> </ul>

◎児童生徒及び学校に対し、生活習慣や学習環境等に関する調査も実施

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査</li> </ul>

## 2. 小学校 国語について

### (1) 調査問題の内容

「知識」のA問題、「活用」のB問題ともに、学習指導要領に示されている三領域一事項（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域及び「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」）に示された指導事項からバランスよく出題されている。

A問題は、第5学年の終了段階において習得すべき指導事項を焦点化して出題され、調査時間は20分間である。

B問題は、第5学年の終了段階において習得すべき指導事項を、小学校学習指導要領解説国語編第2章第1節に示す言語活動例などを遂行する中で活用できるかどうかをみる。そのため、三領域一事項に示された指導事項を複合させて出題され、調査時間は40分間である。

### (2) 主な特徴

○・・・正答率が高かった内容   ▽・・・正答率が低かった内容

(A) = 国語A、(B) = 国語B   〔選：選択式、短：短答式、記：記述式〕

#### ① 話すこと・聞くこと

○(B) 相手の立場や状況を感じ取って聞くこと。〔選〕

#### ② 書くこと

▽(A) 文と文の意味のつながりを考えながら、接続詞を使って内容を分けて書くこと。〔短〕

▽ (B) 目的や意図に応じ、必要な内容を適切に引用して書くこと。〔短〕

▽ (B) 目的や意図に応じ、複数の内容を関係づけながら自分の考えを具体的に書くこと。〔記〕

### ③ 読むこと

○ (A) 広告を読み、編集の特徴を捉えること。〔選〕

▽ (A) 俳句の情景を捉えること。〔選〕

▽ (B) 2人の推薦文を読み比べて読み、推薦している対象や理由を捉えること。〔短〕

### ④ 言語事項

○ (A) 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読むこと。〔短〕

▽ (B) 文の定義を理解すること。〔短〕

○ (A) 接続詞「だから」のもつ働きを理解すること。〔選〕

## (3) 全体的な傾向と課題について

「書くこと」の平均正答率が他の領域に比べ低い。グラフなどの資料を正確に読み、分かったことを書くことは、国語科の学習のみならず、各教科等の学習や日常生活においても意識して身につけさせていく必要がある。また、国語Bでは、目的や意図に応じ、必要な内容を編集して書く力が問われた。本問で取り上げられたリーフレットは、内容の一貫性が求められ、1枚の用紙の中に目的や意図に応じ、伝えたい内容を精選し、読み手に分かるように編集することが大切である。このような知識や技能を学習活動や日常生活を通して、更に身につけさせる必要がある。

## 3. 小学校 算数について

### (1) 調査問題の内容

「知識」に関するA問題並びに、「活用」に関するB問題のいずれも、学習指導要領の目標及び内容に基づき、「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の各領域に示された指導内容からバランスよく出題されている。

A問題は、第5学年までに身につけておくべきものを焦点化して出題されており、調査時間は、20分間である。

B問題は、①物事を数・量・図形などに着目して観察し的確に捉えること ②与えられた情報を分類整理したり必要なものを適切に選択したりすること ③筋道を立てて考えたり振り返って考えたりすること ④事象を数学的に解釈したり自分の考えを数学的に表現したりすることなどのような観点を盛り込んだ調査問題となっており、調査時間は、40分間である。

### (2) 主な特徴

○・・・正答率が高かった内容   ▽・・・正答率が低かった内容

(A) = 算数A、(B) = 算数B   〔選：選択式、短：短答式、記：記述式〕

#### ① 数と計算

○ (A) 繰り下がりのある減法の計算をすること。〔短〕

○ (A) 商が少数になる除法の計算をすること。〔短〕

○ (A) ( ) を用いた整数の計算をすること。〔短〕

- (A) 同分母の分数の加法の計算をすること。〔短〕

## ② 量と測定

- (A) 曲線部分の長さを測定する際に用いる適切な計器を理解していること。〔選〕
- ▽ (A) 1 a (1アール) の面積と等しい正方形の一辺の長さを理解していること。〔選〕
- (A) 円柱について、見取図の高さと展開図の側面の辺の長さとは対応していることを理解していること。〔短〕
- ▽ (B) 示された分け方で2つの三角形の面積が等しくなることを記述できること。〔記〕

## ② 図形

- (A) 図に示された分割の仕方とその説明とを対応させること。〔選〕
- (B) 示された情報から2つの要素の意味を解釈し、ものの位置を特定すること。〔短〕

## ③ 数量関係

- ▽ (B) 表から数値を適切に取り出して、2つの数量の関係が比例の関係ではないことを記述できること。〔記〕
- ▽ (B) 割合が同じで基準量が増えているときの比較量の大小を判断し、その判断の理由を記述できること。〔記〕

### (3) 全体的な傾向と課題について

4つの領域の中で、「数量関係」の知識・技能について、身につけさせる必要がある。田や畑などの面積を表す際に、平方メートルを単位とすると数値が大きくなる。そこでアール、ヘクタールの単位を使うと、大きさが捉えやすくなり、便利であることを理解することが大切である。

B問題で正答率が低い「数量関係」についての授業改善を図っていく必要がある。本問題では、社会科の学習に関連して、見学で訪れた図書館で示されたグラフについて考察する場面が設定された。問題を解決するために、棒グラフと折れ線グラフを観察して、そのグラフが何を表しているかを判断し、数量の大小と変化の様子とを関連させて捉えることや、基準量と割合の変化に着目して、比較量の大小を判断し、その判断の理由を言葉と数や式を用いて表現すること等の要素を取り入れた学習活動を充実させていく必要がある。

## 4. 中学校 国語について

### (1) 調査問題の内容

「知識」のA問題、「活用」のB問題ともに、学習指導要領に示されている三領域一事項（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言語事項」）に基づいて、その全体から問題作成されている。

A問題は、各設問の出題が学習指導要領の一つの指導事項に対応することを基本としている。また、三領域一事項の全てからの出題となっている。B問題は、実生活や具体的な場面や生徒が授業などで実際に行っている言語事項を想定したものになっている。一つの領域だけでなく、複数の領域は指導事項に対応させて出題している場合もある。調査時間は、それぞれ45分間である。

### (2) 主な特徴

- ・・・正答率が高かった内容   ▽・・・正答率が低かった内容  
(A) = 国語A、(B) = 国語B   〔選：選択式、短：短答式、記：記述式〕

### ① 話すこと・聞くこと

○ (A) 話し合いの方向を捉えて司会の役割を果たすこと。〔選〕

○ (A) 話すための材料を多様な方法で集めること。〔選〕

○ (A) 論理的な構成や展開を考えて話すこと。〔選〕

## ② 書くこと

○ (A) 段落の役割を考えて文章を構成すること。〔選〕

▽ (A) 文の接続に注意し、伝えたい事柄を明確にして書くこと。〔短〕

## ③ 読むこと

○ (A) 描写の効果を考え、内容を理解すること。〔選〕

○ (A) 文章の表現の特徴を捉えること。〔選〕

○ (A) 文脈の中における語句の意味を理解すること。〔選〕

○ (A) 文章の展開に即して内容を捉えること。〔選〕

○ (B) 文章の展開に即して内容を捉えること。〔短〕

## ④ 言語事項

○ (A) 文脈に即して漢字を正しく読むこと。〔短〕

○ (A) 漢字の楷書と行書との違いを理解して書くこと。〔短〕

○ (A) 文章の中で敬語を適切に使うこと。〔選〕

○ (A) 修飾語と被修飾語の照応について理解すること。〔選〕

○ (A) 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むこと。〔短〕

### (3) 全体的な傾向と課題について

4つ領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言語事項」）のバランスはとれている。「書くこと」で、事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書く力の正答率が低かったため、報告する文章を書く際に、①書いた文章を読み返し、目的に応じた表現に直すこと ②文の接続に注意し、伝えたい事柄を明確にして書くことを意識した学習活動を充実させていく必要がある。

## 5. 中学校 数学について

### (1) 調査問題の内容

「知識」に関する A 問題と、「活用」に関する B 問題のいずれも、「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」の各領域から出題されている。

A 問題は、小学校第 6 学年から中学校第 2 学年までに身につけておくべきものを焦点化して出題されており調査時間は 45 分間である。B 問題は、与えられた情報を分類整理したり必要なものを選択したりすること、事象を数学的に解釈したり自分の考えを数学的に表現したりすること等の数学的なプロセスが身につけているかどうかみるための出題となっており、調査時間は 45 分間である。

## (2) 主な特徴

○・・・正答率が高かった内容   ▽・・・正答率が低かった内容

(A) = 数学A、(B) = 数学B   〔選：選択式、短：短答式、記：記述式〕

### ① 数と式

- (A) 分数の乗法の計算ができること。〔短〕
- (A) (    ) を含む正の数と負の数の計算ができること。〔短〕
- (A) 整式の加法と減法の計算ができること。〔短〕
- ▽ (A) 数量の関係や法則などを文字式で表すことができること。〔短〕

### ② 図形

- (A) 与えられた図形の拡大図をかくことができること。〔短〕
- (A) 見取図、投影図から空間図形を読み取ることができること。〔選〕

### ③ 関数

- ▽ (B) 関数の意味を理解していること。〔選〕
- (B) 一次関数の式について、 $x$ の値に対応する $y$ の値を求めること。〔短〕
- ▽ (B) 一次関数の表から、変化の割合を求めることができる。〔短〕

### ④ 資料の活用

- ▽ (B) ヒストグラムから相対度数を求めること。〔短〕

## (3) 全体的な傾向と課題について

A問題については、「数と式」の領域で、文字を用いた式の四則計算や、文字を用いた式で数量及び数量の関係をとらえるという力を身につけさせる必要がある。

B問題については、「関数」「資料の活用」において平均正答率が低い。関数は、日常的な事象の中かに多く見られたり用いられたりする。一方の値を決めれば他方の値がただ1つ決まるような関係として捉えられる事象について、比例、反比例、一次関数などに共通する基本的な概念を定着させる必要がある。また、相対度数の意味と求め方についても、資料の傾向を読み取ったり、目的に応じて資料から代表値を求めたりする活動を取り入れた授業を行っていく必要がある。

## 6. 最後に

### (1) 調査結果に関する留意事項

本調査は、実施教科が国語、算数・数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものではないことなどから、本調査の結果については、児童生徒が身につけるべき学力の特定の一部であることを留意する必要があります。

### (2) 今後の支援策

調査結果の分析を行って課題を把握し、各学校の取り組みを支援していきます。具体的には、授業改善のための研究授業への支援や、指導方法・評価方法の工夫改善のための研修への支援等を進め、学力の定着と向上を図ります。